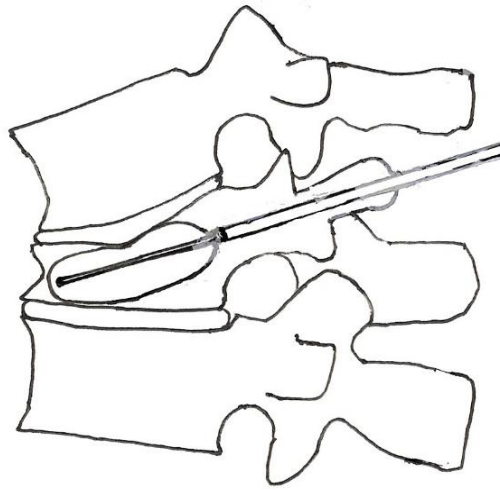


# 脊椎圧迫骨折に対する手術

BKP (Balloon Kyphoplasty)

バルーン椎体形成術



- ① 鎮痛剤の投与、安静、コルセットの着用によって圧迫骨折の激痛が改善しない場合に考慮します。
- ② 潰れた骨にセメントを注入することによって、骨折前の形に近づけて、痛みを和らげる方法です。
- ③ 手術はX線透視下にて全身麻酔で行います。短時間の手術（30～1時間）で早期に痛みの軽減が行え、生活の質が向上します。
- ④ 手技としては圧迫骨折した椎体に針を刺しそこにバルーンを挿入し、バルーンを挿入しバルーンを膨らませ骨セメントを注入して終了です。
- ⑤ 骨セメントはメチルメタクリレートで、これを充填することによって椎体を安定させて痛みを和らげます。
- ⑥ 90歳代の方でも全身麻酔をかけること等に問題がない方は、BKP治療を受けることができますが、次の場合にはBKPを受けられません。
  - ① 破裂骨折の場合。（骨セメント注入により神経症状が生じる）
  - ② 椎体後壁（背中側）損傷により空洞がある。
  - ③ 圧潰により骨セメントの注入ができない。